



直方

第140号

2008・3・1

社協だより 少数者

編集・発行：社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 直方市山部側筒谷 616-145 TEL 23-2551 FAX 23-2552



平成19年度地域福祉セミナー

誰もが住みなれた家や地域で安心して生活していくこと、その人らしく生きていくには、住民同士の助け合いが不可欠です。まずは、自分自身に何ができるか勉強し、助けあえる場をつくっていきたいものです。

この様に荒れていく社会を再生する事は本当に出来ないのだろうか。将来を担う子ども達に、私達大人は果して素晴らしい生き方を示しているのだろうか、歪められた価値感の中で方向を見失つてはいないだろうか、深刻な難題を目前に突きつけられた思いがする。今こそ私達一人ひとり、暗がりを照らす小さな明かりにならなければと思う。そして2008年度が健康で、すべての人々が幸せでいられる様、みんなで力を合わせたい。

(毛利)

間もなく新しい年度の幕明け、振り返ってみるとこの一年、悲しい出来事が多すぎた。こうしてベンを走らせている間にも幼い子ども達や年を重ねた弱い立場の人達が次々に暗い穴に落ちこんでしまう。それでもう一度とはい上る事が出来ない。この様な悲痛な事件が起る前に、何故私達は気付いてあげる事が出来ないのだろう。その上過激な競争社会の中でモラルを失つてしまつた人達によって、安全であるべき食品までも次々に汚染され、生命をおびやかされていく。

カンテラ

この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

自分自身ができる
ことへの気づき

平成19年度
地域福祉セミナー

平成19年10月2日から平成20年1月22日まで全8回に亘り、地域福祉セミナーを開催しました。

このセミナーは、地域で自分ができることは何なのかを考えていたらというので、内容は次の通りである。

☆地域福祉セミナー内容☆

第1回「グループワーク」

第2回「地域福祉とは何か」

第3回「参加型体験学習」

(福祉まつりへの参加)

第4回「障害者の抱えるニーズと市民の気づき①」

第5回「障害者の抱えるニーズと市民の気づき②」

「引きこもり児童について」「民生委員・児童委員活動からみた高齢者虐待防止」

第6回「団塊世代の地域デビュー8つの入口」

第7回「普通救命講習」

第8回「グループワーク」
全8回の延べ参加人数は147人であった。

当事者が講演を行う第4回・第5回では、参加者から多くの質問が飛び出し、セミナー終了後も当事者講師に質問していく姿が見られ大変印象的であった。

☆参加者からの意見☆

現在の直方市の改善すべき点を発表された。

。地域のつながりを深めていく必要がある。
。情報を多く伝えていくことが必要だ。その手段を考えていく必要がある。
。市と地域がつながる機会が必要である。

。自分ができる小さなことから考えてみる。
。地域の方に積極的に挨拶をする。
。町内や世代間の交流に参加する。
。障害のある方等の交流の機会を増やす。

。直方駅のエレベーター設置。駅周辺のパリアフリー化など多種多様の意見が飛び交った。

第1回から第8回通しての参加は少数であったが、今後の福祉について考えていくことができる内容になったと感じている。

社会福祉協議会がセミナーを開いていく意義は、市民の地域福祉課題の共有、解決方法の検討、地域での活動者の育成等である。

最終日には、参加者自らが手をあげ、社協の活動に関わって行きたいと言られた姿には、セミナーでの意欲の火を消すことなく、今後の活動につなげていく必要がある。また、今後も社協がセミナー等を開催し、地域福祉課題について住民と一緒に考えていく重要性があるとも感じている。今回のセミナー参加者の声を生かしながら、今後も、よりよいセミナーにしていきたくと考えている。

◇北九州生命保険協会様から
福祉巡回車を寄贈していただきました

【ゴールドキーの授与】



【贈呈車の前で記念撮影】



北九州生命保険協会様から、地域福祉の向上に寄与することを目的として直方市社会福祉協議会に対し、福祉巡回車を寄贈していただき、贈呈式が平成19年11月29日(木)に直方市総合福祉センター集会室で行われました。

車両は直方市社会福祉協議会の事業全般で大切に使わせていただきます。



「ついて、丸めて、食べて、応援して もちつき会開催」

情報の広場

ボランティアに興味のある方ご参加ください

直方ボランティアのつどい

「日曜出会いの広場もちつき会」が直方市総合福祉センターで平成19年12月16日(日)に行われました。この広場は障害の有無や年齢に関わらず、市民の出会いとふれあいの場づくりを目的としています。

晴天にも恵まれ、約40名の方が参加されました。ボランティア、近所の子ども達、障害者、皆が助けあいながら30キロのきねつきもちができるました。

「ついて、丸めて、食べて、応援して」それぞれがお互いを助けあいながら、できたてのもちを食べ、会話を弾む雰囲気でした。

年齢、障害などに関係なく、出会いや話をする機会が必要だという住民の声は、様々な所で聞こえてきます。もちつき会に参加された方は、つながりの大切さを感じることができ、「直方に住んでよかったです」と言えるまちづくりが改めて必要だと感じたのではないか。

【問い合わせ】

直方市社会福祉協議会
電話(0949)23-2551

【日時】

平成20年3月30日(日)
10時~15時

【内容及び場所】

午前……風船バレー
直方市立西小学校(体育館)
午後……交流会
直方市総合福祉センター

△ボラ連紹介⑨△

重心を支える会

(全国重症心身障害児(者)を守る会 直轄分会)

会長 朝比奈 治子

近藤 靖著

近藤 靖著

知的に、身体に、そして行動障害のある子ども達を支える会です。

全国的にも、地域的にも少數の家族会です。その障害の人達の日常行動やレクリエーション(キャンプや音楽セラピー)など、親子と一緒に行動しながら、精神的な支えに少しでも力を發揮できればと云う思いで活動しています。

ほんの少しの力しかありませんが、支えられている人達が、何時日の日か支える側にいるよう勉強会を定期的に行ってています。私たち家族当事者が少数である事で、行事も規模しかできない事もありますが、ボランティアのご協力を受けながら少しずつ前へ進んでいます。地域で私達や関係者に触れ合うことがあります。ただくと有難く思います。

「もっとも弱い者を、一人もめなく守る」と云う会の教えに支えられています。

図書室

さようなら
盲導犬ミッキー

近藤 靖著

最近、街で見かける盲導犬について「盲導犬は我慢ばかりさせられてかわいそう」「仕事が大変だから寿命が短い」などの誤解が多いようだ

が、「どうぶつ奇想天外!」番組ディレクターの著者はミッキーを追い続けて盲導犬の生涯を語る。

繁殖ウォーカーとの別れ、優しく可愛がってくれた、パピーウォーカーとの別れについ涙ぐむ。途中失明の宮腰さんの目となっての盲導犬としての活動、盲導犬と一緒に家族一同の生活がよく理解できる。

そして、元気な盲導犬にも、いつか引退の時期が来る。「犬から引退するとは、絶対言わない」。引退させて、老犬施設に送るつらさ、老犬施設での余生の過ごさせ方に感動せずにはおられない。(嶋田)

